洋学資料館

No. 38
September, 2026

CONTENTS

前期企画展 資料が秘めた物語Ⅵ……2
第79回 文化講演会……3
夏休み教室開催……4
友の会の活動……5
NEWS FILE……6
資料館展示品から……7
INFORMATION（催し物のご案内）……8



日本海を望む鳥取県東伯郡北栄町江北に建つ「石田春渓之碑」です。津山市から国道179号線を奥津方面へ30kmほど北上すると苫田郡鏡野町長藤に至りますが、石田家は代々この地で医業を営んでいました。本誌No.30で紹介した「石田良碩先生碑」、その良碩の長男が春渓です。医師不足に悩む江北の願いを受け、春渓は転居して人生の後半を江北の医療に尽くしました。長藤にある墓碑「故石田春渓夫婦之墓」には「明治33年伯州江北歿 行年67歳」とあり、亡くなった後に郷里へ葬られたことがうかがえます。春渓没後15年の大正4年（1915）、江北の有志がこの碑を建立し、深い感謝の思いを刻みました。

文・写真：名誉館長 下山純正

津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING



前期企画展

資料が秘めた物語 Ⅵ

■ 会期：令和8年3月7日（土）～10月4日（日）

博物館に収蔵された資料は、その資料が作られてから現在にいたるまで長い年月を、多くの人の手を介して守り伝えられてきました。その過程での様々な出来事が、資料には歴史として刻まれています。色々な角度から光をあてて研究することで、資料はその秘められた物語を語り出します。今回の企画展は、６つの物語をご紹介しました。

「受入れられていく西洋料理」

江戸時代、蘭学者などが長崎へ遊学し出島のオランダ人の生活に触れる中で彼らが食していた料理のメニューやその体験を記録したものが残されています。

また、時代が下ると外交の必要性などもあり、宮中など公式な場でも西洋料理が供されることになりました。明治時代、皇后の通訳などをつとめた北島以登子（いとこ）の家には当時の宮中の食事会などの招待状やメニュー表が残されており、当時の西洋料理の様子を伺い知ることができます。

「藩主を看取った津山藩医」

最後の津山藩主松平慶倫（よしとも）は廃藩置県の直後の明治４年（１８７１）７月に亡くなります。その最期を看取ったのは西洋医学を学んだ津山藩医でした。

華岡流外科を学び、慶倫の奥方の乳がんの摘出手術を執刀した久原洪哉（こうさい）、宇田川榕菴の跡をついだ宇田川興斎（こうさい）の二人の連名で最期の数日の容態や治療について記した記録が残されています。そこには和洋の薬などを駆使し治療している様子が見て取れます。

そのほかには「描かれた馬」、「箕作家とナポレオン」、「病気と治療法」、「洋学者が研究した自然現象」についてご紹介しました。

観覧者の皆さんは、興味深そうに資料に見入っていました。



第79回文化講演会

『シーボルト家、箕作家に見る日独交流
―広報外交、シーボルト顕彰事業をめぐって―』

講師　関西学院大学教育学部 准教授　堅田 智子 先生

4月18日（土）、関西学院大学教育学部准教授の堅田智子先生を講師にお招きし、第79回文化講演会を開催しました。今回の講演会ではフィリップ・フランツ・フォン・シーボルト（以下 シーボルト）の息子たちと箕作阮甫の孫たちとの交流についてお話しいただきました。

講演では、シーボルトの息子であるアレクサンダー・フォン・シーボルトが正院翻訳局で箕作麟祥と共に勤務していたことや、アレクサンダーと弟のハインリッヒ・フォン・シーボルトが父シーボルトの顕彰事業で呉秀三と知り合い、その後に交流を持つようになった経緯について、詳しいお話がありました。

また、シーボルト顕彰事業について、ドイツでの顕彰活動をシーボルト兄弟が担い、日本での活動は呉秀三が担っていったとのことでした。シーボルト兄弟没後も両家の交流は続き、亡くなった二人の姉であるヘレーネ・フォン・ウルム＝ツー＝エアバッハが顕彰活動を長期的にサポートしたということです。

あまり広くは知られていないシーボルト家と箕作家との交流について、会場の皆さんは熱心に聞き入っておられました。講演後は活発に質疑応答が交わされ、ご聴講の皆さんの関心の高さがうかがえました。

洋学資料館の夏休み教室開催!!

□ヒンデローペン・トートバッグの作品づくり

7月25日（土）に小学生の親子向け、翌日の26日（日）には一般向けに、オランダの伝統工芸であるヒンデローペンの作品作りのワークショップを開催しました。今回は七夕飾りとトートバッグの絵付けを行いました。

今回も、講師は当館展示室の装飾を描かれたＫｉｎｕｋｏヒンダローペンスタジオの永江絹子先生をお招きし、ご指導いただきました。



トートバッグの表面にチューリップやモダンポピー、ボールフラワーなどの絵柄を絵付けし、最後に中央にモダンローズを描いて仕上げました。

参加者の皆さんは、それぞれ真剣な面持ちで絵付けの作業を行い、出来上がったお気に入りの作品をうれしそうに持って帰っていました。



□むかしの学者もやった化学実験

8月1日（土）に化学実教室が開かれ、親子20組40名が参加しました。この化学実験教室は、津山藩医の宇田川榕菴（うだがわようあん）が著した日本初の本格的な化学書である『舎密開宗（セイミかいそう）』に掲載されている化学実験を再現するというイベントです。

1つ目は、津山高専の廣木先生と同校の学生による「宇田川榕菴と電池のひみつ」と題して、レモンやりんごなどの身近なフルーツも電池として利用できることを確かめるボルタ式電池の実験を行いました。

2つ目は津山高校の生徒たちによる「宇田川榕菴と挑む『酸素』とカメレオン水の実験」と題して、電気分解によって酸素を発生させる実験と液体の「信号反応」と呼ばれる色の変化を確認する実験を行いました。

どちらの実験でも子どもたちから歓声が上がり、興味津々といった様子でした。実験後には展示室の『舎密開宗』を見学する様子も見られました。





□人体のしくみやはたらきについて学ぼう！



8月8日（土）に、川崎医科大学現代医学教育博物館の森谷卓也館長、中村信彦先生らのご指導による「人体のしくみやはたらきについて学ぼう！」を開催しました。

まず、当館学芸員が『解体新書』についての説明をした後、講師の先生方から、人体の臓器それぞれの機能について解説がありました。続いて、脳や心臓、肺などの実物標本をスケッチしながら、臓器の形や役割などを把握しました。その後、紙エプロンに臓器のシールを貼ることで、臓器の位置や大きさなどを学びました。

今回も、多くのご応募があり、盛況の中イベントを終えることができました。アンケートからは、どの教室も「楽しかった」という感想をいただきました。



友の会の活動

第43回友の会研修バス旅行
華岡青洲の足跡を追って

6月6日（土）・7日（日）に友の会研修バス旅行を実施しました。今回は友の会の設立45周年を記念し、1泊2日で和歌山県を訪ねました。コロナ禍の影響もあり、宿泊を伴う研修バス旅行は、実に10年ぶりの実施です。

初日は世界初の全身麻酔手術を成功させたことで知られる、華岡青洲の医学塾春林軒を訪問。現地のスタッフにご案内いただき、当時にしては先進的だった青洲の考え方に触れることができました。その後、真田信繁（幸村）親子が蟄居したことで知られる、九度山の真田庵と真田ミュージアムを見学しました。



華岡清洲の銅像の前で

2日目はあいにくの雨天でしたが、高野山を参拝しました。奥之院に続く参道には、津山藩松平家の祖である結城秀康の御霊屋があります。高野山のガイドによる詳しい説明とユーモアにあふれたお話に楽しい時間を過ごすことができました。また、奥之院では「生身供」を見学しました。1日2回、弘法大師にご飯を供える神聖な儀式で1200年以上、毎日欠かさず行われています。厳かな空気の中で貴重な体験になりました。



結城秀康の御霊屋の前で

NEWS FILE

スポット展示
日本物理学のパイオニア　長岡半太郎

4月12日（日）～8月20日（木）、長岡半太郎の旧蔵資料を紹介する展示を行いました。半太郎は土星型原子模型を提唱したことで知られる物理学者です。理化学研究所や大阪帝国大学の設立にも尽力し、第一回の文化勲章も授与されています。

また、箕作阮甫のひ孫で、麟祥の娘である操子が半太郎に嫁いだことから、長岡家と箕作家は縁戚関係にあたります。そのご縁で、令和7年12月に長岡あき子様から、長岡半太郎旧蔵の資料をご寄贈いただきました。



その中から、半太郎の義父で法学者の箕作麟祥が編んだ歴史書『万国新史』をはじめ、中国語訳された西洋の天文学書である『談天』、半太郎が書写したと思われる天文学書『欽定儀象考成』を展示しました。

県内高校看護科学生の交流会開催

4月25日（土）に岡山県内の高校の看護科に在籍する生徒同士の親睦を図り、看護師を目指す者としての感性を磨く目的で、県内5校の看護学生交流会が開催されました。今年度は津山東高校がホスト役で、津山で開かれました。

午前は小島館長が津山市総合福祉会館で「蘭学の発展に努めた津山の洋学者たち」と題した講演を行い、午後には5校の生徒120名が、グループごとに資料館を見学しました。看護師を志望しているということで、医療に関する展示を熱心に見学していました。



市立図書館との共催
パネル展「廣瀬うめ」

令和8年度前期のNHK連続テレビ小説「風、薫る」の放送に合わせ、6月25日（木）～10月末まで、津山市立図書館と共催でパネル展を開催しています。こちらは現在の津山市出身で日本初のトレインド・ナース（正規の訓練を受けた看護婦）の1人となった、廣瀬うめを紹介したものです。うめは慶応4（明治元・1868）年に生まれ、朝ドラの主人公のモチーフとなった大関和・鈴木雅らとともに学びました。卒業後は、東京婦人矯風会に所属し、看護婦の知識と技術を活かして、慈善活動に尽力します。明治33（1900）年にはアメリカへ渡り、サンフランシスコに約40年間滞在して、看護や助産に携わりました。また、夫とともに日本人学校を設立し、現地の日本人にたいへん慕われたそうです。

12月には、岡山芸術創造劇場ハレノワにて、うめを主人公にしたミュージカル「拝啓、ナイチンゲール様」が上演されますので、ぜひ、そちらにもご注目ください。



資料館展示品から

医薬の神様が勢ぞろい

医道四祖画幅



これは、医薬の神様とされる人物４名を集めて描いた風変わりな絵の掛軸です。この掛軸を収納する木箱の蓋に「桑田立斎の『愛育全書』という書物の口絵を手本として、泰齢が写して描いた」という意味の墨書があり、泰齢という人物はよくわかりませんが、桑田立斎は幕末に種痘の普及に努めた蘭方医で、『愛育茶譚』という育児書を著しています。この書物の巻頭に、この掛軸の絵のデッサンのような絵（右下写真）があり、先ほどの箱書が書名以外は正確であると確認できます。

この口絵には、左から順に「依卜拉得斯」「少名彦尊」「大己貴尊」「神農」と、名前が明記されています。それらの人物のあらましをご紹介しましょう。

ヒポクラテスは、西洋で「医学の父」と称される古代ギリシャの医師です。少名彦尊（少彦名命）は、手のひらに乗るほど小さく、大国主命とともに日本各地を巡った医薬の神様です。大己貴尊は大国主命の別名で、日本の国土を創造し、天照大神に国を譲った神様です。神農は、頭に角があり、薬草を自らなめて効用を調べた中国古代神話上の帝王で、農耕・医薬の神とされました。

右手前の神農は疑う余地がありませんが、他の３名は疑問が残ります。まず、左手前のヒポクラテスについて、彼の画像は髪の少ない坊主頭にヒゲを生やした顔で描かれることが多く、服装もヒポクラテスよりずっと後世のような印象です。むしろ、ドイツの外科医で杉田玄白や大槻玄沢から尊敬されたハイステル（ハイスター）を想定できます。



『愛育茶譚』の口絵

そして、奥の２名はともに日本の神々ですが、左は衣冠束帯の姿から、むしろ平安貴族のように見え、この二神の描き分けとして不自然です。平安貴族風の人物は、日本最古の医学書とされる「医心方」を編集した丹波康頼、もう一人が少彦名命のように見えます。

描かれたのはいったい誰か、謎は深まるばかりですが、それぞれが誰であるにせよ、東洋と西洋の医薬の神様を集めた、ユニークなデザインの絵なのは間違いありません。この４名全てに敬意を抱き、平素から神のように崇めていた医師が、この絵を床の間に掛けて拝んでいたのではないでしょうか。

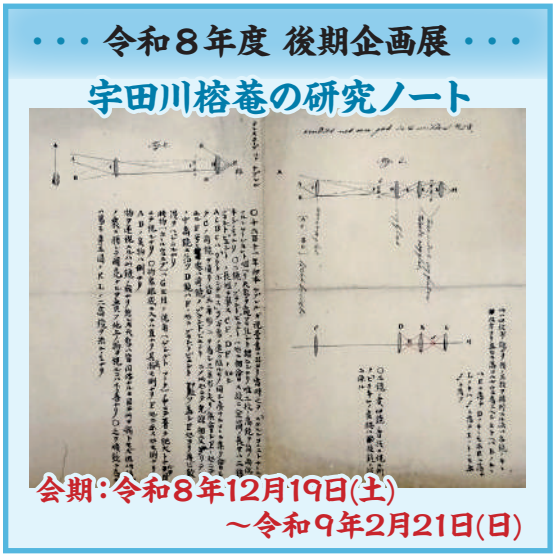
文：館長　小島徹

INFORMATION

令和８年度の催し物（予定）

		企画展
4月	■ 前期企画展「資料が秘めた物語 partⅥ」 ■18 第 79 回文化講演会・友の会総会 （休館日：13･20･27･30 日）	3/7～
5月	（休館日：7･8･11･18･25 日）	
6月	■1 友の会研修バス旅行 （休館日：1･8･15･22･29 日）	
7月	■25 親子でヒンデローペンの作品づくり ■26 ヒンデローペン絵付け体験教室 （休館日：6･13･21･22･27 日）	
8月	■1 むかしの学者もやった化学実験 ■8 人体のしくみとはたらきについて学ぼう！ （休館日：10･12･17･24･31 日）	
9月	（休館日：7･14･25･28 日）	資料が秘めた物語 part Ⅵ ～10/4
10月	■3 三津同盟締結 5 周年記念シンポジウム（中津市） ■24 秋季企画展「緒方洪庵が受け渡した蘭学の灯火」 ■31 第 3 回蘭医学サロン（ザ・シロヤマテラス） （休館日：5･13･14･19･26 日）	10/24～ 緒方洪庵が受け渡した蘭学の灯火―宇田川家・箕作家との師弟の絆― ～11/29
11月	■ 友の会史跡見学会 ■28 開成所共同研究 公開シンポジウム （休館日：2･4･9･16･24･25･30 日）	
12月	■19 後期企画展「宇田川榕菴の研究ノート」 （休館日：7･14･21･28 ～ 31 日）	12/19～ 宇田川榕菴の研究ノート ～2/21
1月	■24 オムニバス講演会 （休館日：1 ～ 4･12･13･18･25 日）	
2月	（休館日：1･8･12･15･22･24 日）	
3月	（休館日：1･8･15･23･24 日）	





■企画展　■催し物　■講演会　■友の会　※催し物は予告なく変更となることがあります。なるべく資料館ホームページでご確認ください。

ご利用案内

■開館時間／9:00～17:00（入館は16:30まで）
■休 館 日／月曜日（祝祭日の場合はその翌日）
　祝日の翌日、年末年始（12月29日～1月3日）
■入 館 料／

一　般	一般(65歳以上)	高校・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)	200円 (160円)

※(　　)内は30名以上の団体料金です。
※小学生・中学生は無料です。

津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING
〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
TEL(0868)23-3324　FAX(0868)23-9864
URL https://www.tsuyama-yougaku.jp



●交通のご案内
・ＪＲ津山駅からごんごバスで12分、西新町下車徒歩2分
・中国自動車道　津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分

洋学資料館　No.38　令和8年9月発行　■津山洋学資料館／編集・発行　■二葉／印刷